



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.30 No.3(No.115) July 1997



## マシュマロのような日本の大学生 —大学改革に向けての雑感—

医学部分館長 福永 利彦

短歌を自分でつくることはできないが、新聞の短歌投稿欄を読むのは好きで自分勝手な想像を楽しんでいる。

ある日、“マシュマロのような日本の留学生角なく柔らかく自己主張なく”というアメリカ在住の西岡徳江さんの短歌が、朝日歌壇に選ばれているのに気付いた(1994年10月23日)日本

人留学生と接する機会をもった教師の感慨が詠まれたものと受け取った。米国の大学生とはよほど異なるのだろうか。筆者も似たような印象を琉大・医学部医学科の学生諸君から受けており、この短歌に興味をもち書き留めておいた。医学科3年次の学生諸君と講義、実習などを通じて接触を持つようになってから13年以上にな

マシュマロのような日本の大学生 —大学改革 に向けての雑感—	1
アインシュタインの脳、電子化情報の忘れ物、 Serendipity	4
研究室等からのCD-ROM検索システム利用 案内	7
CD-ROM検索サービスに新しいタイトルを追加	9
平成9年度「電子メディア利用指導」実施 状況(4～6月期)	10
附属図書館にニューフェイス登場	11

資料・カード目録の配置について	12
「読書案内」がホームページに	13
図書館ボランティアと職員の交流会	14
アカデミー賞受賞作品映写会	14
本学紀要類紹介：—シリーズ 7—	15
沖縄関係資料新着案内	16
本学教官著作寄贈図書案内	19
図書館事情	21
医学部分館	24
お知らせ	20, 21, 23

附属図書館のホームページ (<http://lib1.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) もご覧下さい。

るが、私の印象は、女子学生、男子学生を問わず優しく、素直で、可愛い感じの若者が多いというものである。この印象を負の面から言えば、子供っぽい、受け身的、頼りない、などとなる。そして、この負の面が問題である。

筆者が医学部学生として過ごした昭和31-37年(1956-1962年)は、日本が高度経済成長期を迎える以前の、戦後の混乱と貧しさがなお残る時代であった。その頃の大学生は、一人前の大人として認められたいという志向が今の学生より強く大人びていたが、その分、生意気であった。また、テレビが普及していなかったためか今の学生より本をよく読んだと思う。それでも、明治の頃、例えば夏目漱石の小説に現われる大学生と比べれば、はるかに子供であった。このように若者は、時代の影響を受けざるをえない。“マッシュマロのような”と残念な気持ち(?)を込めて詠まれるような特性が現代の学生にあるとしても、その因ってきたところは現代という時代が与える影響が大きいのであって、若者自身に主たる責任があるとはいえないだろう。そのような状況を産んだ時代、特に初等・中等・高等教育制度や大学入試制度などをつくってきたのは我々大人に他ならない。また、高等教育に携わる大学人もその責任の一端を担っている筈である。

つい先日、文部省の重要なポジション(課長)に就いておられる某氏の「21世紀に向けた医学・医療のあり方について」と題する特別講演会が医学部で開催された。その講演の全内容をお伝えすることは筆者の力量に余ることだし、その任でもないが、筆者が考えているテーマとの関連から、是非ここに紹介しておきたいことがある。その課長は、ここ数年を「改革の時期」と捉え、改革が為されるか否かによって21世紀に展望を開くことができるか否かが決まる、と言われる。改革とは、あらゆる分野についてであり、勿論、大学改革もその一つである。規制緩和、地方自治の拡大、インフォームド・コンセントの徹底を含む医療制度の改革などを実際にやれるか否か。視点の転換、つまり、日本という国だけを見るのではなく地球規模で考える方向への転換の必要性も強調された。特にインパクトを受けたのは、次のような問題提起であっ

た。これまでは、役人、医師、教師の三職能者に対して、一般大衆は尊敬の念を持ってきた。一方、これらの職にある人達は、「自分達は一生懸命仕事をしているから、自分達に任せてください」ということでやってきた。しかし、今やこれら三職能集団と大衆との間にはっきりした乖離が現われてきている。そして、大衆の尊敬を受けてきたこれら三分野においてこそ改革の必要性が高いのだが、現実にはこれら三分野の改革が最も困難と思われる。特に、医学部の先生は、医師であり、教師でもあり、さらに国立大学ならば役人的要素もいくらか含むだろう。それゆえ、一層難しい状況にあるとおもわれる。大衆からの乖離に気付かずこれまでのままでいると、間違いなくかつての“国鉄”のようになり、国民から見放され存在の基盤を失うだろう。国立大学の民営化も当然起こりうる…。このような、誠に辛辣な歯に衣着せぬ問題提起であった。ご自身日本政府の中核におられるお役人でありながら(あるいは、それ故にこそ却って、かもしれない)、このように改革に対する考えを強い信念とともに述べられたことに私は感銘を受けた。

現在の日本の教育制度・カリキュラムは、“主体性”の確立へ学生を導く教育という観点では問題が大きいと思われる。大学の全分野について言えるかは別として、少なくとも医学教育については問題視されている。去る5月20日(火)、NHK 総合テレビの“クローズアップ現代”は、「聴診器が使えない - 偏差値世代の医学生・基本の欠落 -」というテーマで放映した。30分番組でもあり、深く掘り下げているとは思えなかったが、一つの問題提起ではあった。焦点は、“自分で考えることができない医学生”におかれていたようだ。(勿論、全ての医学生がそうであるということではなく、そのような医学生が増えてきている、という趣旨である。)テレビはまず、医師国家試験に対する医学生の対応の仕方を写し出す。医師国家試験は地域ごとに実施されるが、試験前夜は全員ホテルに泊り込む。深夜までファックスなどにより送られてくる出題予想情報を幹事が各室の受験者に配布する。受験者は受験用参考書から解答を見つけ出し、答えの暗記をする。その映像

は異様で、若者の爽やかさが私には感じられなかった。また、いくつかの私立医科大学や国立大学医学部の医学教育現場の映像もあった。そこでは、学生に考える力をつけるための努力が教授や助教授によって語られる。学生はマニュアル通りのことしかできない…、患者さんは一人一人異なり教科書通りのケースなどまずないのに、その個々の場合に対応できない…、臨床実習を終了しているのに聴診器も正しく使えない学生が多い…、等々のコメントがある。厚生省の医師国家試験担当者は「国家試験に実技のテストも加えるべきだ」という考えもあるが、金がかかり過ぎて困難だ」と語る。番組は、NHK 論説委員の「国家試験の方法を変えるなどの外圧のみに頼るのではなく、医学教育現場の内部からの改革が必要」というコメントで終わった。そして、このテレビを視た一般市民は、今後若い医師の診療を受けることに不安を感じるのではないかと危惧された。

「自分で考えることができない、もしくは、不得手な学生」という指摘は、医学生のみならず、程度の差があるとしても現代の大学生一般に当てはまるのではなかろうか。さらにいえば、「自分で考える」ということは、易しいことではない。例えば、パソコンの使用法に習熟することの方がむしろ易しいだろう。かの大哲学者、カント先生は「諸君は私から哲学を学ぶのではなく、哲学することを学ぶように。思想を単に口まねするために学ぶのではなく、考えることを学ぶように」と講義のなかで繰り返し言ったと伝えられる。これは、トータルとして人間形成に関することを意味し、単に知識と技術を身につけることとはことなるのではなかろうか。そして現代の日本社会は、文系、理系を問わず、知識と技術を身につけ、方法論に習熟した、世の中で直ぐに役立つ人材の養成を大学に

期待してきたのではなかったか。そのような流れの中で、オーム教団の一連の事件、高級国家公務員や社会的責任が大きい大企業経営者などの不祥事等々を経験した日本社会は、知識の伝授に偏り過ぎてきた大学教育のあり方に対して疑問を抱き始めたのではないか。現状をこのように捉えた場合、大学は知識と技術だけを学生に教え、身につけさせるだけでよいのだろうか、という根源的な問題が浮かび上がってくる。実は、医学教育に関しては、既に10年も前にこの問題、知識伝授型教育からの脱却に関する提言がなされており、「医学教育の改善に関する調査研究協力者会議 最終まとめ；文部省高等教育局医学教育課編著、昭和62年発行」の36-37ページに次のように記述されている。「今後の教育の発想は、基本的知識を修得させるとともに、学生が将来未知の課題に遭遇した時、それを自らの力で解決していくという創造力、判断力などを含む問題解決能力を養うという面を重視すべきである。このような問題解決型学習の重要性は今後一層高まるであろう。」 実際、NHKの“クローズアップ現代”で取り上げられた程度にまで、社会的な要請が高まってきているのである。ここでいう“問題解決型能力を養う”とは、前述の“自分で考える力をつける”と同じ内容と考えてよいだろう。この提言に反対する教師は多くはないと思われるが、具体的な方法論が問題となる。医学科では、一つの科目において教授と助教授が約100人の学生に対応しなければならないという点に困難さがある。しかし、何らかの工夫により小人数の発表・討論型学習の機会を増やすことは、全く不可能という訳でもないだろう。自分が担当する科目においてだけであれ、今や、この課題に真剣に取り組むときであると考えている。

(ふくなが としひこ:医学部教授 ウイルス学)

## アインシュタインの脳、電子化情報の忘れ物、Serendipity

前医学部分館長 平田 幸男

今年4月から始まった国の大型基礎科学計画「脳科学の時代」は、知る、守る、創る、の3テーマで、脳の構造や働きの解明、老化防止、アルツハイマー病の予防や治療、脳に似たコンピュータの開発などをめざし、20年計画で、新年度の予算は約150億円とのことです(3月17日朝日新聞)。また既に3月7日には学術審議会特定研究領域推進分科会から「大学等における脳研究の推進について」との報告も出ています。「脳」流行りで、書店に「脳」の書架が設けられていたり、そうでなくとも、書名に「脳」の字がついた単行書や雑誌の「脳」特集号が店頭に平積みされる時代です。

ひと月ほどまえも、東京の某TVキー局の番組制作スタッフから電話で、子どもの知能やその他の能力の発達と脳との関係を分かり易く示す、テレビの絵になるような資料やデータがないかと訊いてきました。そんな都合の良い、そして一見して子どもの様々な能力の発達を脳の構造の面から裏付けるような所見は現在見つけられていないと応えはしましたが、あまり素気なくしてはと、たまたま乳児期から小児期にかけての脳のMRI(核磁気共鳴画像)の所見を取りまとめたいところだったので、お節介というか、親切というかそのデータの一部を資料としてファックスで送りました。これで簡単に引き下がるようなスタッフではなく、その後も数回、担当者を替えて同じ様な質問がありましたが、同じ応えを繰り返していたら、とうとう諦めたようです。他の脳科学者から満足のいくデータを手に入れたのか、番組の企画が流れてしまったのかは定かではありません。

脳のことを研究しているんですって?じゃ、頭がいいとは?、天才とは?、三つ子の魂百までって本当?、などの問題を脳の全体または部分の構造の違いとか変化で説明できないの?「脳科学の時代」に入る以前からこんな質問や詰問?

に悩まされています。知性派?の某女性旬刊誌の記者は「女の決断とは?」という特集のために、決断にかかわる脳の部分に男女の違いがあるか?と問い、「そんな違いは簡単には分かりません。」とヒトの脳を前に困惑している筆者を写真に撮り、それをいかにも違いが分かる神経科学者に仕立てて紙面に載せました。

上野動物園でパンダのランランが死んだ朝、解剖に呼び出されてこの動物の脳をやっと取り出した時、当時の飼育課長に「パンダは、脳から見るとどのくらい頭がいいですか?」と訊かれて困ったこともあります。

出廻っている「脳」の本の中には、動物やヒトの知的能力の程度やその発達の仕組みが、すべて脳という形あるものを基盤に説明が付くとも受けとられるような大変断定的な書き方をしているものもあります。しかし、それらの説明の基になっている論文を読みますと、元々は、ある脳の一部の構造を論ずる際に、その部分の機能との関わりが、ごくごく控えめに示唆または類推されているに過ぎないものが多いのですが、これが、「脳こそすべて」派の著者や編集者の手にかかると、あたかも脳の構造と働きとの関係が確定したかのように書かれてしまうことが多々あるようです。

アインシュタインの脳 先日電話してきた番組制作者も「天才と脳」の問題でアインシュタインの脳の例を持ち出してきました。「一科学者-アインシュタイン-の脳」と題され(Diamond M.C. et al. (1985) On the brain of a scientist: Albert Einstein. *Exper Neurol* 88 198-204)、アインシュタインの左大脳半球の皮質の小さな部分(第39野と呼ばれている)のグリア細胞の数が、対照と比べて有意に多かったという報告の事です。用いられた観察方法にもやや問題があり、決して一流とは言えない論文です。対象とした部位の機能もそれほど確定したものでなく、恐

らくは言語活動に関係が深いだろう、と言う程度にしか言えない小さな部位について見つかった差違なのです。その部位を観察した理由を、著者らはアインシュタイン自身の内省的な言葉(注)によって導かれたと書いているのも、この種の自然科学系の論文としてはやや異様ですが、その観察結果が、この大変特異な人物の数学的思考過程における精神的イメージないし内的言語の性質を説明する可能性を示すのではないかと言われたり、さらには構成細胞比の違いが彼の知的能力の全体像を説明でき、さらには彼の‘天才性’の、脳における表現であるとまでされては言い過ぎとしか言いようがありません。大同小異程度の差が、まさしく針小棒大で天才性を説明する事象にまで持ち上げられたと言うべきでしょうか。

(注:「単語や言語は、書かれたものにせよ、話されたものにせよ、私の思考のメカニズムのなかではなんの役割も果たしていないようだ。」(1945),「私たちの思考が大体、記号(言葉)を使わずに、それどころか、相当程度、無意識に進行していることに疑いはない。」(1979)。なお、アインシュタインは、3歳になるまで言葉を話すことを覚えなかったそうで、この遅れが、アインシュタインの視覚的思考(つまり「思考実験」)の起源だったのではないかという示唆がなされています。(アリス・カラプリス「アインシュタインは語る」大月書店1996)

いま述べたように観察事実とは不釣り合いな解釈が一人歩きする例は他にもあります。ヒトの脳皮質の神経細胞の形の変化を観ると、特に神経細胞にとって情報の受入場所である枝(樹状突起)が、発生・発達の時期を追って伸長し、枝分かかれが複雑になっていくように見えるので、この変化が脳が様々な情報を処理する能力が発達していく過程を説明する構造的な背景である、として度々引用されているConelの名著(The postnatal development of the human cerebral cortex, Vols. 1~6, 1939-1963, Harvard Univ. Press)があります。しかし、元の書物にあたって各発達段階の細胞の形を眺め、更に実際の標本を観てみると、各時期には様々な複雑さの枝を持つ細胞が混在しており、それらの内から発達・成長の時期の順に、複雑さが進行する様に見える細胞を恣意的に選ぶことは簡単で

す。でも、そうやって選んだ細胞の図を、時期や年齢の順に並べたものが、皮質ないし脳の全体の形態の変化を表しているとは決して言えないことは確かです。

ヒトのさまざまな知的能力の発達は、その基盤としての脳の解剖学的、生理学的な発達に裏付けされているとは考えられていますが、その変化とくに構造的なそれは極めて緩やかで長く続き、‘かたち’から観れる脳の最後の形成過程(=前頭葉と側頭葉を結ぶ連合線維の有髓化)が終わるのは32~34才だ(Yakovlev & Lecour 1967)と報告されているのですが、これとても、この後はっきりと再確認されているわけではないのです。

**情報電子化の得失** 上に挙げたような、間違った深読みや、極端な一般化を招きやすい報告をも含めて様々な情報が、それがやや専門的な論文や単行書であっても、今やインターネットをはじめ様々な電子媒体を通じて、研究者だけでなく誰でも大変速く、容易に、そして特別な代価をほとんど払わずに手に入るとても便利な時代になりました。便利すぎて、手に余る沢山の情報が手元に集まります。以前は鶴の目鷹の目でやっと手に入れた論文をそれこそ紙背に徹するように読んでいた研究者にしてからが、今やいとも簡単に手に入る文献や論文の一つ一つをじっくりと批判的に読むことが少なくなり、抄録された結果のみを文字どおり流し読みする事が多くなります。つい、自分が今関心があるテーマの、自分が考えている話の筋に関わる部分のみを読んでしまう傾向にあるものですから、一般の読者は勿論、少し専門が違えば、研究者であっても、記載されたデータや観察結果の拠って立つ実験の過程なり、データの有効範囲を決定する背景などを知ることが億劫になってしまい、その結果、早とちりというか、早計な過度な一般化、さらには曲解が起こる可能性が増えてくるのではないかと危惧されます。

**Serendipity** 情報の電子化がもたらすかも知れない変化のひとつに serendipity (注)の衰退?があります。データの抄録や最終結論の部分以外の所に記されている研究対象や方法の詳細、また最終結論に至る推論の道筋などが、電子化される際に情報を掬う指の間から流れ去っ

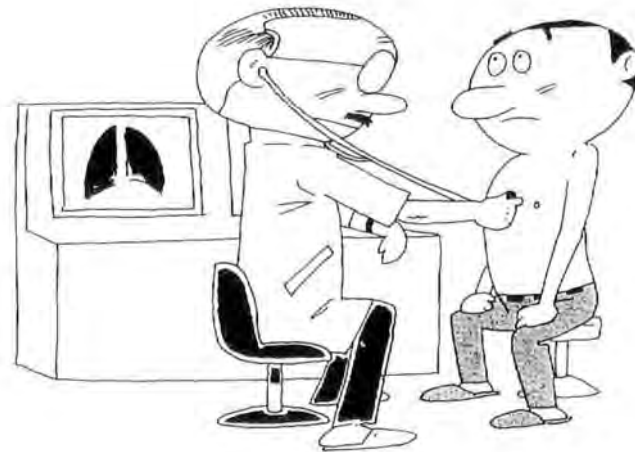
てしまう可能性があるという事です。現在既に一部が電子化されている Nature や Science などのe-journalを読まれば直ぐ気づかれることと思いますが、例えば、論文ページの間隙に載せられたやや小さな字体での囲み記事やコラムなど、そして実験器具や書籍の広告さらに研究職の求人広告などは、誌面が電子化される際にいわば冗長なものとして削られています。落とされてしまったこれらの雑多な情報は、しかしながら、私共が仕事を進めていく時の思わぬヒントになったり、また思ってもみなかったテーマの展開や新しい発見—これがまさしく serendipity なのですが—に繋がる可能性があります。こういった、情報が電子化されるときに失われるものに加え、電子化されたものを、ネットワークを通じて読む時には、私たちは視聴覚のみを通して、と言うことは、それ以外の感覚を閉ざしているという事、さらに回線に接続して読んでいるときには、時間的制約が、冗長な

情報を排除する圧力になり得ます。serendipity の出現にとっては不利な条件です。

これまで主流であった印刷媒体を目の前にしたとき、私たちは視聴覚に加え、ページをめくる指を通しての紙の肌触り、仄かに匂うインクの香りに蠢く鼻などわれわれの五感のすべてを解き放ちます。時間を気にせずに行を追い、ときに自由に翔けさせた想像力がイメージを置くことの出来る行間や余白がある紙媒体の本や雑誌にも、まだまだ存在理由はあると思うのです。

(注：Serendipity, --tousには適当な日本語訳が見つからないので The New Shorter Oxford English Dictionary にある説明を引用しておきます。always making discoveries, by accidents and sagacity, of things they were not in quest of./A supposed talent for the making of happy and unexpected discoveries by accidents or when looking for something else:)

(ひらた ゆきお：医学部教授 解剖学)



## 研究室等からのCD-ROM検索システム利用案内

学内LANを利用して、以下のCD-ROMを附属図書館外からでも使用することができます。利用に際して、下の説明をお読みください。なお、今後変更があれば、随時、附属図書館ホームページ (<http://lib1.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) に掲載されますので、ご確認ください。

CD-ROM	収録範囲	サーバー種別	専用ソフト	接続可能機器	WWW利用	購入経費
雑誌記事索引	1985-	Opti-net	必要	D/W	不可	
BA	1995-	ERL	*	D/W/M	可	
BA/RRM	1989-	ERL	*	D/W/M	可	
MEDLINE	1966-	ERL	*	D/W/M	可	医学部
PsycLIT	1974-	ERL	*	D/W/M	可	
AHCI	1992-	Opti-net	必要	D/W	不可	
ABI/Inform	1992-	Opti-net	必要	D/W	不可	
CCOD	Current	ファイルサーバ	必要	D/W	不可	
GBP	最新版	Opti-net	必要	D/W	不可	
SCI	1993-	Opti-net	必要	D/W	不可	
SSCI	1991-	Opti-net	必要	D/W	不可	

接続可能機器：D Dos  
M Macintosh  
W Windows

\*については、以下の説明をお読みください。

### 1. CD-ROM検索システムの利用申請

研究室等から附属図書館のCD-ROM検索システムを利用する場合は、あらかじめ「CD-ROM検索システム利用申請書」を提出して下さい。附属図書館ではそれにとづいて、「CD-ROM検索システム利用承認書」とともに利用者登録番号を交付します。また「利用申請書」には、利用者本人以外に経費負担者の記入が必要です。申請書は中央館、医学部分館カウンターに備えられています。

### 2. 利用申請書の受付窓口

利用申請書の受付期間と窓口は下記のとおりです。

- (1) 受付期間 随時  
(2) 受付窓口 附属図書館 : 電子情報係 (中央館3F) (内線 千原8167, 2207)  
医学部分館 : 分館資料サービス係 (内線 上原 2733)

### 3. 利用者登録番号の有効期間

有効期間は当該年度内です。毎年3月に更新手続きを行って下さい。

### 4. パスワード

- (1) ERLサーバー (上記表のサーバー種別参照)

最初のアクセス時に、インターネット・ブラウザ（Netscape等）から利用者各自でパスワードを設定します。設定の方法は、利用者登録番号の交付とともに送付されるプリントに説明があります。また、附属図書館ホームページにも説明があります。

- (2) Opti-net、ファイルサーバー（上記表のサーバー種別参照）  
専用ソフトのインストール時に設定します。

## 5. 利用料金

附属図書館内に設置してある端末以外（研究室の端末等）からのアクセスについては課金されます。料金の徴収は、経費負担者からの校費の振替えにより行います。料金は20円/分です。なお、上記表の購入経費欄に記載されている学部等の利用者の当該CD-ROMの利用については、課金されません。

## 6. 検索方法の講習会「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」

CD-ROMの検索方法についての講習会は、附属図書館主催で定期的に行われています。期日や内容については、学内や附属図書館掲示板、附属図書館ホームページ上に掲載されています。

## 7. 接続について

研究室等からCD-ROM検索システムを利用する場合は、事前に情報処理センターへネットワーク利用の手続きが必要です。

### (1) ERLサーバへの接続

学内LANとの接続が可能な環境であること。

### (2) Opti-netサーバ、ファイルサーバへの接続

DosまたはWindowsが動作する環境であることが前提です。これ以外に、諸々の条件がありますので、必ず事前にご相談ください。

### (3) 専用ソフトについて

- ・上記表の専用ソフト欄で「必要」と記載されているものに関しては、端末側にソフトをインストールする必要があります。
- ・上記表の専用ソフト欄\*については、下記の方法で利用することが可能です。

a) Netscape等のインターネット・ブラウザの利用

b) 検索専用ソフトの利用

a)の方法は端末側にソフトをインストールすることなしに、利用者登録番号とパスワードがあればすぐに利用することが可能（附属図書館ホームページから利用できます）ですが、b)の方法は端末側に専用ソフトをインストールする必要があります。

### (4) 接続や専用ソフトのインストールに関する詳細については、下記へご相談ください。

問い合わせ先： システム管理係（内線 千原2206）



## CD-ROM 検索サービスに新しいタイトルを追加

利用説明会に130名の参加者

附属図書館では昨年度の4月より、学術研究・教育支援体制を強化するため、学内LANを通して利用するCD-ROM検索サービス（雑誌記事索引、Biological Abstracts, Current Contents, Medline）を行ってきましたが、本年度5月から下記の新しい7タイトルを追加し、研究・教育へのサポート体制を一層拡充させました。

- Science Citation Index (SCI)  
自然科学・医学・工学分野文献の引用文献索引
- Social Science Citation Index (SSCI)  
社会科学分野文献の引用文献索引
- Biological Abstracts RRM  
生物学分野におけるレポート、レビュー、会議録文献の索引
- PsycLIT  
心理学分野文献の索引
- Arts & Humanities Citation Index (AHC I)  
芸術・人文科学分野文献の引用文献索引
- ABI/INFORM Select  
経営学分野文献の索引及び抄録
- Global Books in Print  
英米の情報を主にした、出版目録

これらに関する初回の利用説明会を、平成9年5月15日（中央館）と5月16日（医学部分館）の両日に行ったところ、大学全体から約130名

の参加者があり、導入されたCD-ROM検索サービスに対して大きな期待が寄せられていることがうかがえました。

現在は、附属図書館主催で定期的に行われている「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」のなかで、これらのCD-ROMの検索方法について解説しています。この講座の開催予定等については、附属図書館のホームページや各掲示板でお知らせしますので、是非ご覧ください。また、CD-ROM検索システム利用に関する情報も、附属図書館ホームページから得ることができますので、そちらもご確認ください。「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」に関する問い合わせ・参加申込みは、下記の情報サービス課電子情報係へお願いします。

また、研究室等からCD-ROM検索サービスを利用する場合は、あらかじめ「CD-ROM検索システム利用申請書」を提出する必要があります。附属図書館内での利用は無料ですが、研究室等からの利用は校費により課金されます。ちなみに、平成9年6月1日現在、利用申請を行っている研究者は大学全体で250名に達しています。

問い合わせ・講座参加申込先：

情報サービス課電子情報係

（内線 千原8167、2207）

（電子情報係）



## 電子資料による文献検索講習会実施状況 4～6月期

回数	実施日	申込者等	代表者(担当教官等)	受講者年次	人数	場 所	説明したデータベース
1	H9. 4. 23	教育学部英語科	與 儀 峰奈子	1年次	12	3階研修室	雑誌記事索引、OPAC、Webcat
2	H9. 4. 24	国際101基礎演習	與 儀 憲 徳	1年次	111	多目的ホール	雑誌記事索引、OPAC、Webcat
3	H9. 4. 24	教育学部英語科	與 儀 峰奈子	3、4年次	9	3階研修室	雑誌記事索引、OPAC、Webcat
4	H9. 4. 30	国際言語文化基礎演習	照 屋 善 彦	1年次	7	3階研修室	雑誌記事索引、OPAC、Webcat
5	H9. 5. 6	音楽科教育研究法	シャイヤステ・栄子	大学院生	10	3階研修室	雑誌記事索引、OPAC、Webcat
6	H9. 5. 7	人間科学地域社会コース	本 村 真	3年次	21	3階研修室	雑誌記事索引、OPAC、Webcat
7	H9. 5. 13	海洋自然科学	金 城 昭 夫	大学院生	13	3階研修室	雑誌記事索引、OPAC、Webcat
8	H9. 5. 15	CD-ROM利用説明会		教職員	82	多目的ホール	SCI、SSCI、GBP、他
9	H9. 5. 16	CD-ROM利用説明会		教職員	40	医学部分館会議室	SCI、SSCI、GBP、他
10	H9. 5. 20	医学部保健学研究科		大学院生	13	医学部分館会議室等	MEDLINE、医学中央雑誌、他
11	H9. 5. 21	医学部保健学研究科		大学院生	10	医学部分館会議室等	MEDLINE、医学中央雑誌、他
12	H9. 5. 27	医学部医学研究科		大学院生	9	医学部分館会議室等	MEDLINE、医学中央雑誌、他
13	H9. 5. 28	医学部医学研究科		大学院生	11	医学部分館会議室等	MEDLINE、医学中央雑誌、他
14	H9. 6. 5	附属病院看護部		看護婦	15	医学部分館会議室等	MEDLINE、医学中央雑誌、他
15	H9. 6. 6	附属病院看護部		看護婦	15	医学部分館会議室等	MEDLINE、医学中央雑誌、他
16	H9. 6. 10	定期講習会			7	2階情報検索コーナー	雑誌記事索引
17	H9. 6. 11	定期講習会		図書館員	5	2階情報検索コーナー	雑誌記事索引
18	H9. 6. 11	定期講習会			8	2階情報検索コーナー	雑誌記事索引
19	H9. 6. 12	定期講習会			3	医学部分館検索コーナー	医学中央雑誌
20	H9. 6. 13	定期講習会		図書館員	3	医学部分館検索コーナー	医学中央雑誌
21	H9. 6. 17	沖縄県長寿学園		学外者	50	2階情報検索コーナー	OPAC、インターネット、他
22	H9. 6. 23	理学部海洋自然(化学系)	大 出 茂	1、3年次	10	2階情報検索コーナー	雑誌記事索引、OPAC、Webcat
23	H9. 6. 24	グループ講座		2年次	2	2階情報検索コーナー	雑誌記事索引、OPAC、Webcat
24	H9. 6. 24	定期講習会			5	2階情報検索コーナー	SCI
25	H9. 6. 25	定期講習会			11	2階情報検索コーナー	SCI
26	H9. 6. 26	定期講習会			7	医学部分館検索コーナー	MEDLINE、他
				受講者計	489		

## 附属図書館にニューフェイス登場

新しく情報サービス課に電子情報係を設置

平成9年4月1日付けで附属図書館の事務組織において一部改編があり、電子図書館的機能の充実・強化を図ることを目的として、学内措置により情報サービス課に電子情報係を設置しました。

この係では、以下の業務を行っています。

1. 図書館データベース（目録データベースを除く）のデータを作成します。
2. 図書館の電子機器及びデータベース等の利用について、教育・研修を行います。
3. 図書館の電子広報（電子メールを含む）をします。
4. 図書館の電子資料の運用や管理をします。
5. 図書館の電子資料の選択をします。
6. 所掌事務についての調査や報告をします。

係のスタート以来、電子図書館的機能の整備・強化についての業務に取り組んできましたが、なかでも4月以来行っている情報リテラシー教育の一環である、「附属図書館オリエンテーション（文献検索コース）」（開催希望申込方式）と、CD-ROM・OPAC等の検索技術習得を目的とする「レポート・論文作成のための電

子メディア活用講座」（定期開催）については、新入生から大学院生まで、既に約500名という多くの利用者の参加がありました。

電子情報係で行う利用指導は、「文献検索のyouリキヤー（達人）になろう」をモットーに集団教育を基本としております。講座やグループ単位で講習会等の開催希望があれば遠慮なく申し込んでください。講座内容についても、ご相談いただければ、そのニーズに合わせたものにできます。また、先生方の授業の一環としても、是非ご利用ください。事務室は図書館3階ニューメディア室隣（内線 千原 8167、2207）にあります。お待ちしております。

また各種データベース等の利用講習会も「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」という定期的に行います。それについての案内は、インターネット上の附属図書館ホームページや附属図書館もしくは学部の掲示板等に掲載、掲示しますのでご覧の上、ご参加ください。

その他、電子情報、電子メディアに関するご意見なども、当係へお寄せ下さい。

（電子情報係）



「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」の一コマ

## 資料・カード目録の配置について

附属図書館（中央館）内の、資料とカード目録の配置について変更がありましたので、お知らせします。

## 1. 資料の配置について

## (1) 図書

3階開架書架には、主として1990年以降に受入れた資料、1・2階書庫には、1989年以前の資料が並んでいます。

※ 附属図書館蔵書目録（以下OPACとします）データ上、開架・書庫の区別はありませんので、両方の書架を確認してご利用ください。

## (2) 文庫本

岩波文庫・新書、講談社文庫、東洋文庫、ブルーバックスなどの文庫本は、3階新館部分の閲覧室〈3B室〉の書庫入口前にコーナーを設けています。

※ 「ポピュラーサイエンス」は、3階ブラウジングコーナーに置いています。

※ 〈 〉括弧内は部屋番号です。館内の案内板に表示されています。以下同様です。

(3) OPACデータ上、所在場所が本館になっている資料で、[CLN=請求記号]のデータ表示が数字の前に記号が付いているときは、(1)の場合とは異なり、以下のような場所に並べてあります。

K→ 郷土資料です。

沖縄開架室または沖縄資料室にあります。沖縄開架室内では図書、紀要、雑誌に区別して並べています。沖縄資料室内にだけ所在している資料を利用する場合は、サービスカウンターの職員にお尋ねください。

T→ 白書統計資料です。

1989年以前の資料は雑誌扱い（下記(4)参照）になり、書庫に置かれています。1990年以降は2階参考図書室〈2A室〉

にあります。

R→ 参考図書（事典、辞書、各種二次資料等）です。

2階参考図書室〈2A室〉にあります。

※ 資料の並びは、T 白書統計資料の内の雑誌扱い分を除いて、資料の背に貼り付けられているラベルの番号（分類）順です。

## (4) 雑誌

雑誌のうち所在場所が中央館であるものは、OPACデータ上、[CLN=請求記号]のデータ表示が数字の前に‘Z’が付いています。置かれている場所は以下のとおりです。

Z→ 雑誌（中央館に所在）です。

和雑誌、洋雑誌とも、1975年以前は1階書庫、1976年以後は3階書庫にあります。

・和雑誌の場合は1階書庫〈1D室〉と3階書庫〈3E室〉

・洋雑誌の場合は1階書庫〈1D室〉と3階書庫〈3C、3D室〉

※ 新着雑誌（製本されるまで）は、和洋両方とも3F雑誌閲覧室〈3G室〉にあります。また、新着雑誌であっても、製本されずすぐに書庫へ並べられる雑誌もありますので、書庫、雑誌閲覧室の両方を確認してください。

※ 雑誌の並びは、タイトル順（和は誌名の五十音順、洋はアルファベット順）です。

## 2. 目録カードケースの配置について

2階サービスカウンター前に置いてあった目録カードケースを、2階新館部分（2B和図書書庫入口）に移動しました。その場所のうち、トイレ側には洋図書カード目録を、新館書庫側には和図書カード目録をそれぞれ置いています。

※ OPACデータと重複するものもあります。（資料サービス係）

# 「読書案内」がホームページに

学生の知識や技術の修得、あるいは人間形成のための「読書」へのガイドとして企画された「読書案内」が、先生方の執筆によるご協力を得て完成し、この5月より「附属図書館ホームページ」に掲載されています。この紙面の中で、その内容について全てを紹介することができないのは残念ですが、様々なジャンルの図書が紹介されていて面白い。内容の構成は、図書の表紙の画像（画像がないものも若干あります）と、その図書についてのわかりやすい紹介・解説が寄せられています。（下記右がその一例です）

とにかくホームページを開いてみることをおすすめします。「お、あの先生も書いているぞ!」と思うものがあるかもしれません。また、先生

方の意外な一面を知ることによって、先生方に対して親近感を持つことができ、先生方と学生のみなさんの間でコミュニケーションが持てるきっかけになるかもしれません。学生の皆さんがこれを読んで、「読書」することの喜びを知り、豊かな学生生活を過ごすことが出来ればと願っています。

なおホームページは附属図書館に関する最新の情報が掲載されるため頻りに更新されます。そのため下の図とは必ずしも一致しません。定期的にチェックすると、思いがけない、ためになる情報が得られるかもしれません。

（電子情報係）

## University of the Ryukyus Library



ホームページの御案内

### WHAT'S NEW (6月11日更新)

レポート・論文作成のための電子メディア講座 (6月29日)

お知らせ

持込案内

蔵書検索 (OPAC)

電子データベース (CD-ROMオンライン検索はこちらです)

総合データベース検索 (Hsocial)・・・学系別データベース

光ディスク蔵書案内

展示棟案内

館内案内・図書

読書案内 ～琉球大学教職員が選んだこの一冊～

図書館ニュース (6月1日) ～電子情報係の取組～

Internet (最新のnewsサーバへ)

琉球大学のホームページへ

【図5】

【資料紹介】  
氏名 赤嶺政信  
所属学部 法文学部

宗教クライシス  
(21世紀回廊群ブックス 11)



著者： 上田紀行  
出版社： 岩波書店  
出版年： 1995  
所蔵： 3047/N1/113

地下鉄サリン事件を知りながら生まれたオウム真理教の真意は、われわれの社会にとっても大きな課題を考えた。一連のオウム事件は、一部のどこか狂った人間たちが思ったもので、指導の狂気を鎮め、教団を潰せば問題は解決するという考えは間違っている。この教団を生き出した者が狂風としてあの社会のありよう(病)であるという認識にたつて、なぜエリート科学者や判官な若者があんなに狂風としてあんなに狂風を演じたのか、現代という社会はなぜあんなに狂風を生み出したのか、といった問題こそ問われなければならない。本書は、筑波の文化人類学者(1995年生)である著者が、オウム事件を契機にして以上の問題を視野に入れて書き下した著書で、以下が、本書で議論されているトピックの一部である。

若い人達に与える90世紀という時代の真意は、「かけがえのない」の真意、システム社会と空しさ、競争原理とオウム事件、宗教の人類史的モデル、変容した意識形態、21世紀の宗教論、など、大学では何の目的も持たず、公衆的議論に安んずるため?いい企業に就職するため?公務員になるとどうなる?就職したら出直すためにまた就職する?等々、狂風空想しさを感ぜながら一度でも考えたことのある学生には是非一読をお勧めしたい。そして、オウムではない別の宗教に絶対的価値を見出しているあなたにも、

(あかみね まさのぶ:法文学部人間科学科地域科学講座助教授)

## 図書館ボランティアと職員の交流会

6月20日（金）11時30分から13時まで、附属図書館会議室において図書館ボランティアと図書館職員の交流会を行った。

交流会にはボランティア8名と館長、医学部分館長及び図書館職員約20名が参加した。この交流会は、昨年11月初めて図書館にボランティアを導入して以来かねてより計画があり、日程の都合から延期となっていたもので、このたび平成9年度募集のボランティアとなった7名のうち3名も参加した。日頃ボランティア同士の交流は、お互いの活動曜日・時間帯が違うためなかなかできないので、この機会にとお互いの交流を深め合っていた。（情報サービス課）



図書館ボランティアと職員の交流会風景

## アカデミー賞受賞作品映写会

。。。あの思い出の映画をもう一度。。。

附属図書館では、この6月から毎週1回（定例水曜日）、アカデミー賞受賞作品の映写会を開催しています。もちろん、無料でご覧になれます。どうぞお気軽にご来場下さい。なお、上映の予定は附属図書館ホームページでも確認できます。

場 所：琉球大学附属図書館1F多目的ホール  
 上映時間：休業期（水）13：30～（1回上映）  
 通常期（水）15：00～17：30～（2回上映）

[ 7月予定 ]

1	2日（水）	ティファニーで朝食を	114分	15：00～	17：30～
2	9日（水）	ローマの休日	118分	15：00～	17：30～
3	16日（水）	マイフェアレディ	173分	13：30～	
4	23日（水）	タワーリングインフェルノ	181分	13：30～	

[ 8月予定 ] （第3、4週は会場の都合により曜日変更）

1	6日（水）	ダンスウィズウルブズ	181分	13：30～	
2	13日（水）	愛と哀しみの果て	161分	13：30～	
3	19日（火）	お熱いのがお好き	122分	13：30～	
4	28日（木）	レインマン	135分	13：30～	

[ 9月予定 ]

1	3日（水）	クレイマー、クレイマー	105分	15：00～	17：30～
2	10日（水）	炎のランナー	118分	15：00～	17：30～
3	17日（水）	地球より永遠に	118分	15：00～	17：30～
4	24日（水）	夜の大捜査線	105分	15：00～	17：30～

※ 映写会に関するお問い合わせ・ご要望は、図書館資料サービス係まで Tel: (895)8166

（資料サービス係）

## 本学紀要類紹介：－シリーズ 7－ 教育学部

『琉球大学教育学部紀要』

( Bulletin of the College of  
Education University of the Ryukyus )

発行者：琉球大学教育学部

1957年創刊 B4版 年2回発行

ISSN 0386-5738 (1部－文系)

ISSN 0386-5746 (2部－理系)

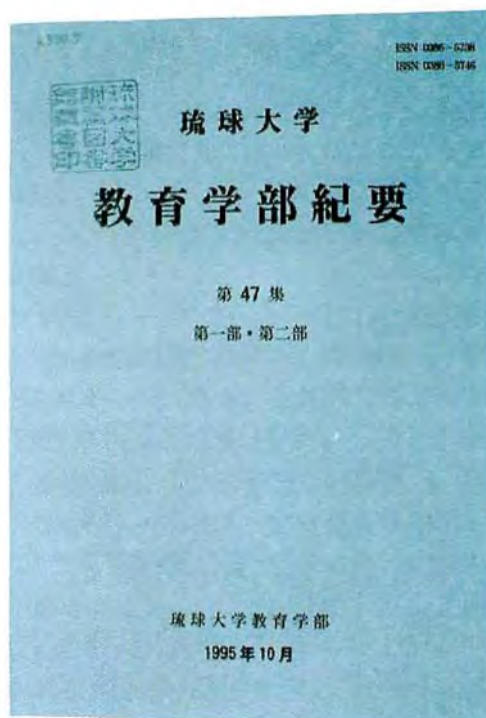
本誌は、琉球大学教育学部の研究機関誌であり、当初は毎年1回の刊行であったが、1993年以降、年2回(3月と10月)刊行されている。創刊は1957年で、今年度は第51集が発行される予定である。投稿資格は原則として教育学部の教官であるが、関連学科および教授会の承認を得て、本学他学部教官や教育学部の非常勤講師も論文を発表している。出版費用は、原則として学部共通経費をあてている。

本誌は、1部と2部に区分され、1部は本学部の国語科、社会科学科、音楽科、美術工芸科、

英語科、教育学科、児童教育科(文系)、日本語教育科、教育実践研究指導センター(文系)、2部は数学科、理科、保健体育科、技術家庭科、家政学科、教育心理学科、児童教育科(理系)、特殊教育科、情報教育科、生涯健康教育科、教育実践研究指導センター(理系)となっている。1部と2部は原則として1冊にまとめられている。第50集では、第1部に7編、第2部に13編の論文が掲載されている。教育学部に所属する教官の専門領域が多岐に渡っているため、掲載される論文も多様なものとなっていることが本誌の特徴である。

本誌は、毎回400部が刊行され、国内外の大学、研究機関等へも発送されている。なお、定年退官の教官がいる年度には退官者のプロフィールが紹介される慣例となっている。

(紀要委員 嘉数朝子)



## 沖縄関係資料新着案内

1997年2月～1997年4月

### 0類 総 記

1. 沖縄の子どもと親の健全育成事業：第1年次報告書 / 沖縄地域児童文庫連絡協議会[編] 西原町(沖縄県)：沖縄地域児童文庫連絡協議会，1993.5 K016.29-OK
2. 新聞記事および写真集：沖縄プロジェクト1年次 / 沖縄地域児童文庫連絡協議会[編] 西原町(沖縄県)：沖縄地域児童文庫連絡協議会，1993.6 K016.29-OK
3. 中山詩文；上巻，下巻 / 程順則[編] [出版地不明]：立雪堂，[出版年不明] K099.7-KE
- 書店，1996.12（岩波新書，新赤版 477） K201.7-OH
7. 與那嶺誌 / 与那嶺誌編集委員会編 今帰仁村(沖縄県)：今帰仁村与那嶺公民館，1995.12 K213-YO
8. 西原の考古 / 西原町史編纂委員会編 西原町(沖縄県)：西原町，1996.3（西原町史，第5巻：資料編 4） K228-NI
9. 具志頭村史；第4巻：村落編1 / 具志頭村史編集委員会編 具志頭村(沖縄県)：具志頭村，1995.5 K233-GU
10. 銭田誌 / 銭田誌編集委員会編 仲里村(沖縄県)：仲里村銭田郷友会，1996.11 K237-ZE

### 1類 哲 学

1. '96おきなわ聖書展：ベッテルハイム来沖150年 / '96おきなわ聖書展実行委員会[編] [那覇]：['96おきなわ聖書展実行委員会]，1996 K193-OK
2. キリシタン史の新発見 / 岸野久，村井早苗編 東京：雄山閣出版，1996.1 K198.2-KI

### 2類 歴 史

1. 沖縄の歴史から何を学ぶか：「自立精神」を考えるために / 自治体学会沖縄地域フォーラム・具志川支部「参水会」[編] 具志川：自治体学会沖縄地域フォーラム・具志川支部「参水会」，1996.10 K200.6-JI
2. 沖縄県史；資料編 第2巻；沖縄戦 2：原文編 / 沖縄県立図書館史料編集室編 那覇：沖縄県教育委員会，1996.3 K200.8-OK
3. 沖縄県史；資料編 第2巻；沖縄戦 2：和訳編 / 沖縄県立図書館史料編集室編 那覇：沖縄県教育委員会，1996.3 K200.8-OK
4. 沖縄戦のはなし / 安仁屋政昭著 那覇：沖縄文化社，1997.1 K201-AN
5. 沖縄現代史 / 新崎盛暉著 東京：岩波書店，1996.11（岩波新書，新赤版 474） K201.7-AR
6. 沖縄平和の礎 / 大田昌秀著 東京：岩波書店，1996.12（岩波新書，新赤版 477） K201.7-OH
7. 與那嶺誌 / 与那嶺誌編集委員会編 今帰仁村(沖縄県)：今帰仁村与那嶺公民館，1995.12 K213-YO
8. 西原の考古 / 西原町史編纂委員会編 西原町(沖縄県)：西原町，1996.3（西原町史，第5巻：資料編 4） K228-NI
9. 具志頭村史；第4巻：村落編1 / 具志頭村史編集委員会編 具志頭村(沖縄県)：具志頭村，1995.5 K233-GU
10. 銭田誌 / 銭田誌編集委員会編 仲里村(沖縄県)：仲里村銭田郷友会，1996.11 K237-ZE
11. 城辺町史；第2巻：戦争体験編 / 城辺町史編纂委員会編 城辺町(沖縄県)：城辺町，1996.3 K242-GU
12. 八重山兵団防衛戦闘資料：独立混成第四十五旅団司令部少佐(高級部員・参謀長職)東畑広吉氏手記 / 東畑広吉[著] 那覇：沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会，1996 K250-OK
13. 参遣状抜書；上巻 / 石垣市総務部市史編集室編 石垣：石垣市役所，1995.3（石垣市史叢書，8） K251-IS
14. 参遣状抜書；下巻 / 石垣市総務部市史編集室編 石垣：石垣市役所，1995.3（石垣市史叢書，9） K251-IS
15. 大島・喜界両島資料雑纂 / 改訂名瀬市誌編纂委員会[編] 名瀬：改訂名瀬市誌編纂委員会，1996.3（改訂名瀬市誌編纂委員会資料集，3） K260-KA
16. 松山王子尚順遺稿 / 山里永吉編 [那覇]：尚順遺稿刊行会，1969.8 K289-SH
17. 神を描いた男・田中一村 / 小林照幸著 東京：中央公論社，1996.10 K289-TA
18. わが師渡久地政一 / 琉球大学教育学部音楽科同窓会編 那覇：琉球大学教育学部音楽科同窓会，1996.8 K289.1-RY
19. ゼンリン住宅地図：沖縄県；浦添市：1997北九州：ゼンリン，1997.2 K290.38-ZE



20. ゼンリン住宅地図：沖縄県；沖縄市・北谷町  
：1997 北九州：ゼンリン，1997.3  
K290.38-ZE
21. 沖縄へのメッセージ 那覇：琉球新報社出版  
部，1997.2 K290.4-SA
- 3類 社会科学
1. 沖縄文化研究；23 / 法政大学沖縄文化研  
究所編 東京：法政大学沖縄文化研究所，  
1997.3 （法政大学沖縄文化研究所紀要）  
K302-OK
2. アジア・女性・沖縄が問う日本 / 安斎育郎[ほ  
か]著 京都：かもがわ出版，1996.5  
（かもがわブックレット，93） K304-AN
3. 公文類聚目録；第12 / 国立公文書館[編]  
東京：国立公文書館，1996.2 K310.9-KO
4. 米国統治下の沖縄農地制度資料；第2巻：  
琉球政府期I，第3巻：琉球政府期II / 沖縄  
県農地制度資料集成編集委員会編 那覇：  
[沖縄県農林水産部]，1995.3-1996.3  
K317-BE
5. 平良市庁舎建設記念誌 / 平良市庁舎建設編  
纂委員会編 [平良]：平良市庁舎建設編纂委  
員会，1993.2 K318.2-HI
6. 清ら心の島再生の祈り：奄美の振興とイメ  
ージアップ / 入佐一俊著 鹿児島：[入佐一俊]，  
1993.7 K318.297-IR
7. 経済、生活・居住、文化の自立した沖縄県の中  
核都市『ねたての都市』をめざして：宜野湾  
市新総合計画中期基本計画；経済の自立編  
 / [宜野湾市]企画部企画調整課編 宜野湾：  
宜野湾市，1996.3 K318.8-GI
8. 沖縄権利宣言 / 照屋寛徳著 宜野湾：サザ  
ンプレス，1997.1 K319.8-TE
9. 核・安保・沖縄：日本の政府は何をしてきた  
か / 渡辺洋三[著] 東京：岩波書店，  
1996.11 （岩波ブックレット，no.415）  
K319.8-WA
10. 最新安保情報：日米安保再定義と沖縄 /  
浅井基文，藤井治夫編 東京：社会批評社，  
1996.9 K319.8-AS
11. 代理署名訴訟最高裁上告棄却 / 沖縄問題編  
集委員会編 東京：リム出版新社，1996.12  
（時代を読むbooklet，4） K319.8-OK
12. 戦争・平和関係図書リスト；2年次 / 糸満市立  
三和中学校[編] 糸満：糸満市三和中学校，  
1996.12 K319.8031-IT
13. 尖閣(せんかく)諸島魚釣島：写真・資料集  
 / 恵忠久著 那覇：尖閣諸島防衛協会，  
1996.11 K329.23-ME
14. ウェーバーにおける契約概念：契約思想の根源  
をさぐる / 与那国暹著 東京：新泉社，  
1997.3 K362-YO
15. 目で見る沖縄の社会福祉 / 沖縄県社会福祉  
協議会[編] 那覇：沖縄県社会福祉協議会，  
1996.3 K369-OK
16. 三和地区の慰霊塔・碑・ガマ：ここは戦場だ  
った / 糸満市立三和中学校編 [糸満]：糸  
満市立三和中学校，1996.12 K369.3-IT
17. ホームルーム担任の生徒指導：自己実現の援助を  
求めて / 柴田正雄著 北谷町(沖縄県)：[柴  
田正雄]，1996.12 （生徒指導実践集，4）  
K374.1-SH
18. A system of input-output accounts for  
Okinawa / by Hiroshi Kakazu Ann Arbor,  
Mich. : U.M.I. , 1986 K377.5-UMI
19. Perceptions of culturally-racially mix  
ed and non-mixed six-seven year old chil  
dren in American dependents' schools of  
Okinawa / by John M. Chapman Ann Arbor,  
Mich. : U.M.I. , c1975 K377.5-UMI
20. The significance of Ryukyu in Satsuma  
finances during the Tokugawa period / by  
Mitsugu Sakihara Ann Arbor, Mich. : U.M.  
I. , c1971 K377.5-UMI
21. 琉球王国の時代 / 沖縄国際大学公開講座委  
員会編 宜野湾：沖縄国際大学公開講座委員  
会，那覇：ボーダーインク（発売），1996.12  
（沖縄国際大学公開講座，1） K379.4-OK
22. 沖縄の基地問題 / 沖縄国際大学公開講座委  
員会編 宜野湾：沖縄国際大学公開講座委員  
会，那覇：ボーダーインク（発売），1997.2  
（沖縄国際大学公開講座，4） K379.4-OK
23. アメリカの大学と少数民族そして沖縄 / 崎原貢  
著；沖縄国際大学公開講座委員会編 宜野湾：  
沖縄国際大学公開講座委員会，南風原町(沖  
縄県)：那覇出版(発売)，1996.12  
（冲国大ブックレット，1） K379.4-OK

24. 沖縄の魔除けとまじない：フーフダ(符札)の研究 / 山里純一著 東京：第一書房，1997.2 (南島文化叢書 / 高宮廣衛 [ほか] 編，18) K380-NA
25. 神語り・昔語りの伝承世界 / 福田晃著 第一書房，1997.2 (Academic series new Asia，21) K388.1-FU
26. 民話の旅：西日本編 / 永田義直著 東京：芸艸堂，1976.12 K388.1-NA
27. 日本文化の深層と沖縄：国際日本文化研究センター共同研究報告 / 山折哲雄編 京都：国際日本文化研究センター，1996.12 (日文研叢書 = Nichibunken Japanese studies series, 12) K389-YA
28. 行政・法律関係文書集成；第1-15巻 / 荒敬編 東京：柏書房，1995.11-1996.10 (GHQトップ・シークレット文書集成=GHQ/SCAP top secret records，第2期) K391.4-GH

## 4類 自然科学

1. 沖縄近海で発達する積乱雲の振舞い：主に竜巻と漏斗雲について / 沖縄気象台[編] [那覇]：沖縄気象台，1996.3 K451.61-OK
2. Problems of ground water quality in insular environments : proceedings of Miyakojima symposium on island water resources/ Miyako Municipal Association and Water Resources Research Center Okinawa : Miyako Municipal Association, University of the Ryukyu, Honolulu, Hawaii : Water Resources Reseach Center, 1996.6 K452.9-MI
3. 日本のジャングル西表島 / 松岡達英作 (日本自然探検の旅，1) 東京：大日本図書，1996.9 K460.8-NI
4. 沖縄本島北部地域生物環境調査データ；平成7年度 / 沖縄総合事務局北部ダム事務所[編] 名護市：沖縄総合事務局北部ダム事務所，1997.1 K468-OK
5. 琉球植物目録：増補訂正版 / 初島住彦，天野鉄夫著 [西原町(沖縄県)]：沖縄生物学会，1994.11 (沖縄県産生物目録シリーズ，2) K472-HA

6. 大保ダムにおけるノグチゲラ保全対策要綱 / 沖縄総合事務局北部ダム事務所[編] 名護：沖縄総合事務局北部ダム事務所，1996.11

K488.8-OK

## 5類 工学

1. 火燃ゆる強者どもの城 東京：毎日新聞社，1996.10 (城，8九州・沖縄) K521.82-SHI
2. 米軍機ハンドブック：U.S.air power ; '97 / 松崎豊一編著 東京：原書房，1996.12 K538.7-MA
3. ぐるぐるグルメの本：この店・この一品；II / 週刊レキオ社[編] 那覇：週刊レキオ社 1997.2 K596.04-GU

## 6類 産業

1. 沖縄の復帰に伴う農地制度等 / 農地制度資料編さん委員会編 [東京]：農政調査会，1996.4 (新農地制度資料 / 農地制度資料編さん委員会編，追巻) K611.2-SHI
2. 農務帳を読む / 比嘉武吉著 宜野湾：比嘉武吉，宜野湾：緑林堂書店(発売)，1997.1 K612-HI
3. 太陽の花：20年のあゆみ / 創立20周年記念誌編集委員会編集 浦添：沖縄県花卉園芸農業協同組合，1996.11 K627-OK
4. めん羊・山羊技術ガイドブック / 日本緬羊協会 [編] 東京：日本緬羊協会，1996.12 K645.4-NI
5. 海の『守り人』論：徹底検証・漁業権と地先権 / 浜本幸生監修・著 東京：まな出版企画，東京：れんが書房新社(発売)，1996.8 K661.12-HA
6. 現代日本流通論 / 知念肇著 東京：中央経済社，1997.2 K675-CHI

## 7類 芸術

1. 南島：名嘉睦稔木版画集 / 名嘉睦稔著 東京：阿部出版，1996.9 K733-NA
2. The Miyakojima：海楽図鑑 館石昭写真集 / 館石昭著 東京：水中造形センター，1996.5 K748-TA
3. 玉那覇有公「紅型」：珠玉の技・創作の世界

- / 玉那覇有公著 那覇：沖縄タイムス社，  
1996.11 K753-TA  
4. 安室奈美恵写真集：#19770920 / Zigen[撮  
影] 東京：ワニブックス，1996.11 K767.8-ZI  
5. 空手道・古武道基本調査報告書 / 沖縄県教  
育庁文化課編 [那覇]：沖縄県教育委員会，  
1994.3 K789-OK

8類 語 学

1. 方言 / 馬瀬良雄編 東京：有精堂，  
1986.1 (論集日本語研究，10) K800-RO  
2. 琉球語学 / 中松竹雄著 那覇：沖縄言語  
文化研究所，1996.8 K800-NA  
3. Developing and testing communicative  
competence in English : focusing on speak-  
ing / by Ken Oshiro Okinawa : Ryukyu  
University, 1993.2 K830.7-OS  
4. 伊江島のはなしことば：シマグチで語る村の  
生活と言いつたえ / 生塩睦子著 伊江村(沖  
縄県)：伊江村教育委員会，1994.3  
K881-OS  
5. 沖縄芝居脚本集；1 / 沖縄言語研究センター編  
西原町(沖縄)：沖縄言語研究センター，1994  
(那覇の方言：那覇市方言記録保存調査，  
4) K883-OK  
6. 沖縄芝居脚本集；2 / 沖縄言語研究センター編  
西原町(沖縄)：沖縄言語研究センター，1994  
(那覇の方言：那覇市方言記録保存調査，  
4) K883-OK  
7. 沖縄芝居脚本集；3 / 沖縄言語研究センター編  
西原町(沖縄)：沖縄言語研究センター，1994  
(那覇の方言：那覇市方言記録保存調査，

4) K883-OK

9類 文 学

1. 歌集 青き地球 / 比嘉美智子著 東京：短  
歌新聞社，1996.10 K910-HI  
2. 南島小景 / 崎山多美著 東京：砂子屋書  
房，1996.10 K913.6-SA  
3. 松田幸治非小説集成「島の生活」 / 松田幸治  
著 広島：南國出版，1996.6 K914.6-MA  
4. 続進一男詩集 / 進一男著 東京：沖積社，  
1996.11 K917-SU  
5. エメラルドグリーンの邦へ：沖縄への手紙：たな  
はしみなこ詩集 / 棚橋美奈子著 京都：か  
もがわ出版，1997.1 K917-TA  
6. コザが燃えた夜 / 橘直人著 国分寺：新風  
舎，1996.7 K930-TA  
7. 南島特別航路 / 池沢夏樹著 東京：日  
本交通公社出版事業局，1991.3 K940-IK  
8. 十七年目のトカラ・平島 / 稲垣尚友著 東京：  
梟社，東京：新泉社(発売)，1995.9  
K950-IN  
9. 農兵隊：鍬の少年戦士 福地曠昭著 南  
風原町(沖縄県)：那覇出版社，1996.11  
K950-FU  
10. 密林のなかの書齋：琉球弧北端の島の日常  
 / 稲垣尚友著 東京：梟社，1996.11  
K950-IN  
11. 夢覚めてなを / 山城直明著 国分寺：新  
風舎，1996.2 K950-YA

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

本学教官著作寄贈図書案内

1997年1月～1997年4月

- 上間 隆則 (法文学部) 1997.3 K362-YO  
新経営学要論 / 上間隆則編著 東京：中央  
経済社，1997.3 335.1-UE  
与那国 暹 (法文学部) 1997.2 K675-CH  
ウェーバーにおける契約概念：契約思想の根  
源をさぐる / 与那国暹著 東京：新泉社，  
二之宮 弘 (理学部)  
パソコンファイル変換法；[1], 2, 3 / 二之

- 宮弘, 竹迫一雄著 東京 : 森北出版, 1984.12-1985.11 007.64-NI  
ソフトウェアの使用法: 偏微分方程式の数値シミュレーション / 二之宮弘著 東京: 東京大学出版会, 1992.5 007.64-NI  
フラクタルデザイン: パソコンで自然の形を描く / マイケル F. バーンズレイ著; 竹迫一雄, 二之宮弘訳 東京: 森北出版, 1992.7 414-BA  
Flow analysis using a PC / H. Ninomiya and K. Onishi Southampton ; Boston : Computational Mechanics Publications , Boca Raton, Fla : CRC Press , c1991 423.8-NI  
パソコンによる流れ解析 / 林健次, 遠山洋, 二之宮弘共著 東京: 朝倉書店, 1986.4 423.8-HA  
パソコンによる水環境流れ解析 / 二之宮弘, 大西和榮編; 小林錦子, 大浦洋子共著 東京 : 朝倉書店, 1997.4 423.8-NI  
新城 俊也 (農学部) さんご礁砂礫地盤の強度評価に関する研究 / 新城俊也(研究代表) [西原町(沖縄県)]: 新城俊也, 1997.3 (科学研究費補助金(一般研究C)研究成果報告書, 平成7年度) K455.9-SH  
伊良部 邦夫 (工学部) Study of flow in a vaneless radial diffuser using flow visualization: 遠心羽根なしディフューザ内流れについての可視化による研究 / by Kunio Irabu [Nishihara-cho, Okinawa] : [Kunio Irabu], 1996.5 534-IR  
福田 雅俊 (名誉教授) 内科医のための糖尿病網膜症眼底図譜 / 福田雅俊著 東京: 三輪書店, 1997.2 WK-835

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

## お知らせ

- ◎ 夏季休業中の開館時間について  
平成9年7月12日(土)～8月31日(日)は夏季休業のため、開館時間が以下のように変更されます。  
開館時間(中央館・医学部分館とも)  
月曜日～金曜日 8:30～17:00  
土曜日・日曜日 休館  
図書館入口、またはインターネット上の附属図書館ホームページの開館案内もご覧ください。
- ◎ 長期貸出開始  
平成9年7月12日(土)～8月31日(日)は夏季休業のため、長期の貸出しを行います。貸出冊数は通常通りで変更はありません。  
返却期限は、平成9年9月11日(木)です。  
また、長期貸出した資料については、貸出延長の手続きはできませんのでご注意ください。
- ◎ 指定図書の本架配列方法の変更について  
指定図書は、沖縄開架室入口の本架にあります。従来までの、指定教官ごとの配列は行わず、資料の背に貼られたラベルの番号順(分類番号順)に、和洋資料混在での並びとなります。利用方法は、館内閲覧が原則ですが、一晩だけの貸し出し(1夜貸出制度)ができます。返却は早めをお願いします。

## 図 書 館 事 情

[ 会 議 ]

◎第214回図書館運営委員会

日時：平成9年3月24日（月）

10：00～11：30

場所：附属図書館会議室

[ 協 議 事 項 ]

- 1) CD-ROM購入に係る自助努力のための方針について
  - ①琉球大学附属図書館資料選定委員会内規の改廃について
  - ②ブランケット・オーダー制度の存廃について
- 2)平成9年度大型コレクション収書計画調書について
- 3)平成9年度自然科学系図書資料収書計画調書について
- 4)平成9年度沖縄関係文献資料購入計画調書について
- 5)その他  
電子図書館機能検討委員会内規の改正について

[ 報 告 事 項 ]

- 1)平成8年度CD-ROM特別経費の決算と導入タイトルについて
- 2)平成9年度CD-ROM購入経費の要求案について
- 3)その他  
①沖縄研究資料調査収集専門委員会の委員

の再任について

②入学試験当日の図書館の対応について

③図書館の事務組織の改編について

◎第31回沖縄研究資料調査収集専門委員会

日時：平成9年1月20日（月）

15：00～16：35

場所：附属図書館会議室

[ 協 議 事 項 ]

- 1)「沖縄研究資料調査収集」について
- 2)その他

◎第32回沖縄研究資料調査収集専門委員会

日時：平成9年2月27日（月）

15：15～16：20

場所：附属図書館会議室

[ 協 議 事 項 ]

- 1)「平成9年度沖縄関係文献資料保存事業経費」の要求について
- 2)委員の改選について
- 3)その他

◎第33回沖縄研究資料調査収集専門委員会

日時：平成9年4月30日（水）

15：10～16：35

場所：附属図書館会議室

[ 協 議 事 項 ]

- 1)「平成9年度沖縄関係文献資料保存事業経費」の要求について
- 2)その他

### サービスカウンター前を模様替えしました

附属図書館（中央館）2階サービスカウンター前のコーナーを整備して、目録・情報検索コーナーを拡充しました。3階ニューメディア室よりパソコンFM/Vを移動・設置しましたので、それを利用して附属図書館ホームページから蔵書目録（OPAC）を検索することもできます。

このコーナーは、「レポート・論文作成のための電子メディア活用コーナー」の開催場所でもありますので、是非一度のぞいてみてください。



サービスカウンター風景

[人事移動]

(平成9年4月1日発令)

氏名	現官職	前官職
福永利彦	医学部分館長	
石田常亜	事務部長	九州大学附属図書館情報管理課長
細戸康治	情報管理課長	名古屋大学附属図書館情報管理課長補佐
豊平朝美	図書館専門員	情報サービス課資料サービス係長
本郷清次郎	情報管理課図書情報係長	情報サービス課分館資料サービス係長
金城真理子	情報管理課分館資料管理係長	情報管理課図書情報係
柳瀬吉雄	情報サービス課資料サービス係長	情報管理課図書情報係長
松原敏夫	情報サービス課電子情報係長	情報管理課分館資料管理係長
豊平朝美	情報サービス課医分館資料サービス係長(併)	
城間弘充	情報管理課総務係主任	医学部管理課用度第二係主任
本永順子	情報管理課図書情報係	情報管理課分館資料管理係
古謝久美子	情報管理課システム管理係	庶務部人事課
赤嶺久夫	情報管理課分館資料管理係	情報管理課システム管理係
上原恵美	情報サービス課電子情報係	情報サービス課分館資料サービス係
上原恵子	情報サービス課分館資料サービス係	情報サービス課資料サービス係
平田幸雄	辞任	医学部分館長
与那嶺政吉	佐賀大学経理部長	事務部長
平元健史	国立民族学博物館情報管理施設 情報システム課長	情報管理課長
仲西盛秀	退職	図書館専門員
新本肇	教育学部会計係主任	情報管理課総務係主任

## 平成9年度科学研究費補助金 「研究成果公開促進費」申請に交付内定の通知

電子図書館的機能整備の一環として昨年計画した科学研究費によるデータベース作成計画申請が認められました。以下がその計画内容です。

1. これまで発刊された沖縄関係資料冊子体目録の内容を基本データとして、当館が所蔵している沖縄関係資料の集大成された目録データベースである「沖縄関係資料総合データベース」の構築を行い、検索サービスをインターネットから提供する。

2. 宮良殿内（みやらどらんち）文庫に収容されている古文書(290件)の全ページ(20,890ページ)の画像入力を行い、画像データベースを構築する。また、それらをインターネットからの閲覧を可能にする。

この事業の進捗状況を附属図書館ホームページにおいて公開する予定です。

（システム管理係）

[附属図書館運営委員]

平成9年4月1日現在

所属部局	職名	氏名	任期	所属部局	職名	氏名	任期
附属図書館	館長	金城 昭夫	～10.10.31	理学部	教授	渡久山 章	～11. 3.31
“	分館長	福永 利彦	～11. 3.31	医学部	教授	小杉 忠誠	～ 9. 9.30
法文学部	助教授	樋口 一彦	～11. 3.31	“	教授	宮城 一郎	～10. 9.30
“	助教授	長部 悦弘	～10. 3.31	工学部	助教授	伊良部邦夫	～11. 3.31
教育学部	教授	嘉数 朝子	～10. 3.31	“	助教授	伊良波繁雄	～10. 3.31
“	教授	水野 益継	～11. 3.31	農学部	教授	小波本直忠	～11. 3.31
理学部	教授	澤岷 英正	～10. 3.31	“	助教授	上里 健次	～10. 4.30

[沖縄研究資料調査収集専門委員]

平成9年4月1日現在

所属部局	職名	氏名	任期	所属部局	職名	氏名	任期
法文学部	教授	比屋根照夫	～12. 3.14	教育学部	教授	阿波根直誠	～11. 6.20
“	教授	我部 政明	～12. 3.14	“	教授	金城須美子	～12. 3.14
“	教授	保坂 廣志	～12. 3.14	“	教授	豊見山和行	～12. 3.14
“	教授	前門 晃	～10. 4.29	理学部	教授	渡久山 章	～11. 9.19
“	教授	仲程 昌徳	～12. 3.14	医学部	教授	崎原 盛造	～10. 4.29
“	教授	上里 賢一	～12. 3.14	工学部	教授	福島 駿介	～10. 4.29
“	教授	赤嶺 守	～12. 3.14	農学部	教授	篠原 武夫	～11. 9.19
“	教授	森田 孟進	～12. 3.14				

## 医 学 部 分 館 だ よ り

### ◎医学部分館長の就任

ウイルス学講座の福永利彦教授が平成9年4月1日付けで、第8代分館長に就任した。

[福永利彦分館長略歴]

学位称号：D.M.S. 専門分野：ウイルス学  
 1967(昭和42)年 大阪大学大学院博士課程修了  
 1970(昭和45)年 大阪大学微生物病研究所助手  
 1984(昭和59)年 大阪大学微生物病研究所助教授

1984(昭和59)年 琉球大学医学部教授

1988(平成元年)年 琉球大学評議員

### ◎オリエンテーション

#### ①新入生オリエンテーション

医学部オリエンテーションが平成9年4月9日(水)、臨床講義棟2階で行われ、平成9年度の新入生170人に対し、医学部分館の利用方法の説明を行った。

#### ②院生新入生オリエンテーション

平成9年5月20日(火)と21日(水)の2日間、21名の保健学研究科1年次と又、翌週の5月27日(火)と28日(水)の2日間、20名の医学研究科1年次に対し図書館利用と文献検索(二次資料の利用と

CD-ROMの利用)の説明を行った。CD-ROMの利用方法については本年度より新設された本館の電子情報係が行った。

#### ③附属病院看護部オリエンテーション

平成9年6月5日(木)と6日(金)の2日間、附属病院看護部研修の一環として新任の看護婦(士)30名に対し、看護文献の利用とCD-ROMの利用について説明を行った。CD-ROMの利用方法については上記と同様、本館の電子情報係が行った。

### ◎ネット型医学中央雑誌CD-ROM版の利用提供について

本年5月より、これまでスタンドアロン型で提供していた医学中央雑誌CD-ROM版をネット型に切り替え、利用者が一層増えた。また、学内LANを通じてSCIその他のネット型CD-ROMを提供したことにより今後一層利用者の増加が見込まれる。

### ◎絵画の寄贈

本年3月に平成8年度医学部医学科卒業第11期生よりフランス在住、県出身画家みやら信之作「座る女」の絵画1点寄贈があり、館内に展示しました。

[附属図書館医学部分館運営委員]

(平成9年度4月1日現在)

局・職名	氏名	任期	局・職名	氏名	任期
医学部 ウイルス講座 分館長 教授	福永 利彦	～11.03.31	泌尿器科 学講座 教授	小川 由英	～10.03.31
法医学 講座 教授	宮崎 哲次	～10.03.31	環境保健 学講座 教授	宮城 一郎	～10.09.30
生理学 第一講座 教授	小杉 忠誠	～ 9.09.30	看護学 第二講座 助教授	高良 弘子	～10.03.31
歯科口腔外 科学講座 教授	砂川 元	～10.03.31	母子保健 学講座 助教授	外間登美子	～10.03.31
内科学 第二講座 教授	高須 信行	～10.03.31			

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第30巻 第3号 (通巻第115号)

平成9年7月発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

電話 098 (895) 8168

編集 びぶりお編集委員会